

2023年度

# 事業報告書

高齢者複合施設  
ふれあいの里とばた

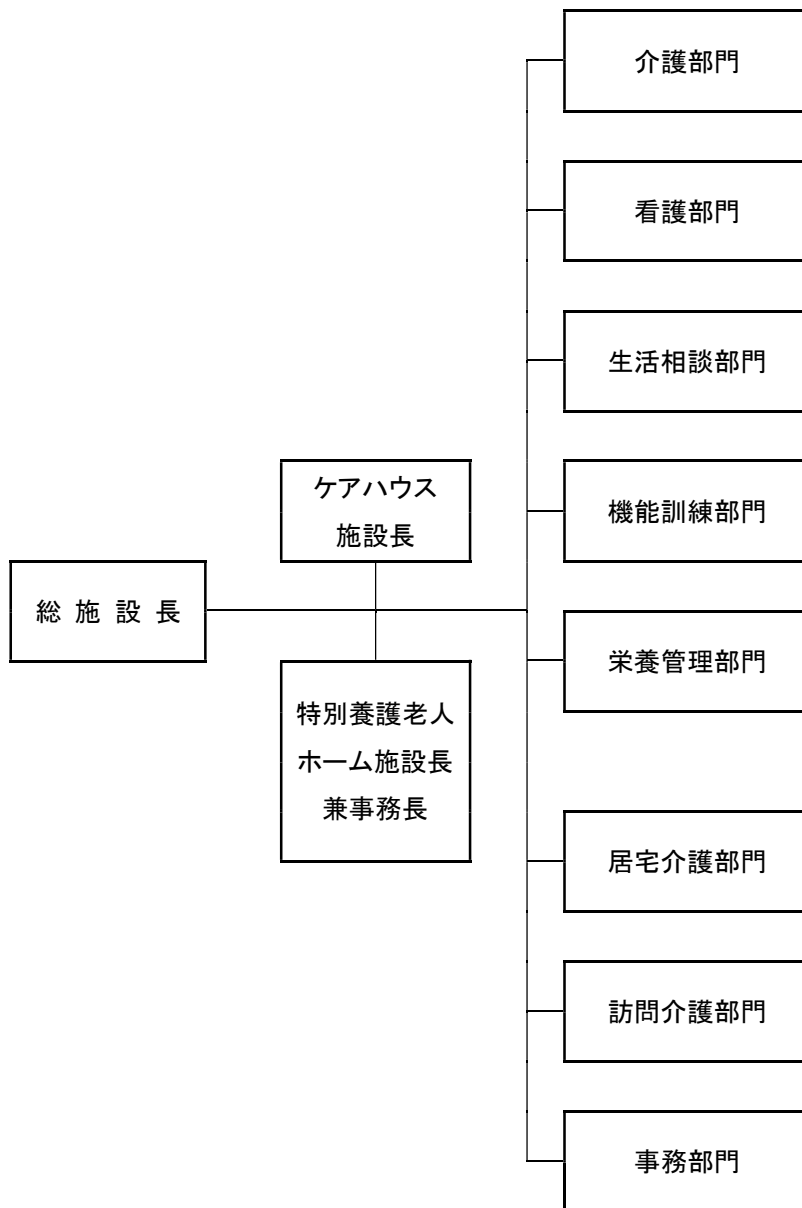
社会福祉法人 福音会

## 施設概要

法人	設立年月日	2005年10月28日
	名称	社会福祉法人 福音会
	代表者	浅野嘉延
施設	名称	高齢者複合施設 ふれあいの里とばた
	所在地	北九州市戸畑区千防一丁目1番6号
	敷地面積	3,500.04m <sup>2</sup>
	建物構造	鉄筋コンクリート6階建て
	延べ床面積	8,374.43m <sup>2</sup>
事業	介護老人福祉施設 特別養護老人ホームとばた	定員 70名 2007年5月1日開設
	介護予防/短期入所生活介護 ショートステイとばた	定員 10名 2007年6月1日開設
	介護予防/特定施設入居者生活介護 ケアハウスとばた	定員 40名 2007年5月1日開設
	高齢者住宅等安心確保事業 ふれあいむら戸畑	2007年4月1日委託契約開始
	介護予防/認知症対応型共同生活介護 グループホームとばた	定員 18名 2008年4月1日開設
	介護予防/通所介護 デイサービスセンターとばた	定員 50名 2008年10月1日開設
	介護予防/訪問介護/障害 ヘルパーステーションとばた	2008年4月1日開設
	居宅介護支援 ケアプランセンターとばた	2008年4月1日開設
	介護員養成事業 介護職員初任者研修 介護福祉士実務者研修	定員 12名 定員 10名

# 運営組織

ふれあいの里とばた 運営組織図



## 法人

### 経営理念

私達は、高齢者と障害者の尊厳を守り、利用者の選択によるサービスの提供をおこない自立を支援します。また、地域福祉のネットワークの一員として福祉のまちづくりに力を尽くします。

### 結果報告

全職員にこの経営理念を浸透させると共に、職員一人ひとりがこの理念をどのように具現化していくかを理解させ、福祉サービスの提供に結びつけるように継続して努力してきた。地域や利用者のご家族から環境面や施設職員の接遇に対して好ましい評価を頂いていることから、なお一層この理念を法人内で深化させ、施設の特徴となるよう努力している。

### 基本方針

- ①一人ひとりがその人らしい生活をおくれるように支援します。
- ②尊厳ある生活ができるように、身体的・精神的拘束ゼロを目指します。
- ③利用者の自己選択・自己決定に基づいた利用者本位のサービスを提供します。
- ④利用者が選択できるよう情報提供・情報開示をおこないます。
- ⑤地域の福祉事業者などとの連携を深めると共に、専門性を活かした情報発信・人材育成に努めます。

### 結果報告

経営理念を具現化するため、職員会議や研修の都度、基本方針を説明し、これを念頭においてサービスの提供をおこなうよう方向付けた。

### 施設のマottoー「一人ひとりをたいせつに」

#### ①なじみの生活をたいせつに

一人ひとりの生活空間を大事にするために完全個室とする。

今までのなじみの生活を大切にするためにお気に入りの家具などを持ちこんで頂き雰囲気づくりに努める。

#### ②健康寿命をのばそう

一人ひとりにふさわしい健康増進と食文化を大切にした食事を提供する。

一人ひとりの健康状態と介護予防を踏まえた機能訓練や楽しいプランを提供する。

#### ③安らぎの日々を

なんでも気兼ねなく話すことのできる雰囲気づくりに努める。

のんびり、ゆっくりした豊かな安らぎの日々が過ごせる雰囲気づくりに励む。

#### ④家族ぐるみ・地域ぐるみのあたたかさを

一人ひとりが家族ぐるみであたたかい人生の収穫期を過ごせるよう努める。

住んでいる地域の一員としてあたたかい交流ができるように努める。

#### ⑤しあわせづくりに

一人ひとりのしあわせづくりをみんなでともに学ぶ。

サポートを必要としている地域の一人ひとりが心豊かな生活ができるような事業展開に努める。

## 結果報告

施設のモットーについては、具体例を挙げて説明し、各事業所または各部門で各自が実践した結果が、「一人ひとりをたいせつに」する福祉サービスの実現につながることを理解させた。また、それをより良い内容とするためには、サービスの質の向上・充実が欠かせないことから職員教育の実施とサービス改善委員会等において利用者・ご家族・職員の意見を十分に反映するよう対応した。

## 中長期計画（2018年度～2023年度）

### 《設備・備品》

- ①ケアハウス入居者の身体機能の低下に伴い、入浴介助やベッドからの立ち上がりが徐々に困難になっていることから、各居室内の浴室に手すり（3か所）を設置すると共にベッド柵をL字（介助）バーに交換する。（2019年度終了）
- ②自走式車椅子を使用されている方のブレーキの掛け忘れが多く、自分で立位がとれる入居者は転倒事故に繋がるケースが見られるため、自動ブレーキ車椅子に交換する。
- ③坐位の安定しない入居者のトイレに跳ね上げ式の手すりを設置する。（特養・ショートは全室設置済み）

## 結果報告

### <2023 年度>

- ①2019年度終了。
- ②特別養護老人ホームで3台購入。
- ③跳ね上げ式の手すりをグループホームで2台、ケアハウスで3台購入。

### <2022 年度>

- ①2019年度終了。
- ②自動ブレーキ車椅子については対象者がいなかったため、実績なし。  
ただし、座面の高さ調節が可能で肘置き・足置きを取り外せる自走式のものやリクライニング式、介助式の車椅子を計9台購入。
- ③対象者がいなかったため、実績なし。

### <2021 年度>

- ①2019年度終了。
- ②自動ブレーキ車椅子については対象者がいなかったため、実績なし。  
ただし、座面の高さ調節が可能で肘置き・足置きを取り外せる車椅子を8台購入。
- ③対象者がいなかったため、実績なし。

### <2020 年度>

- ①2019年度終了。
- ②特別養護老人ホームで1台購入。
- ③対象者がいなかったため、実績なし。

### <2019年度>

- ①L字（介助）バーについては、残り50%の居室に設置。
- ②対象者がいなかったため、実績なし。
- ③跳ね上げ式の手すり（移動可能）をケアハウスに2台設置。

<2018年度>

- ①浴室手すりについては、全室設置済み。また、L字（介助）バーについては、50%の居室に設置。
- ②特別養護老人ホームで1台購入。
- ③跳ね上げ式の手すりをグループホーム及びケアハウスに各々2台設置。

#### 《サービスの拡充》

- ①リハビリを希望するデイサービス利用者の要望に応えるため、機能訓練指導員やリハビリ器具を配し、サービスの拡充を図る。
- ②特別養護老人ホーム及びショートステイに認知症介護実践者研修及び認知症介護実践リーダー研修を修了した者（6名以上）を配置し、認知症に関するケアを効果的に機能させる体制を整え、介護サービスの充実を図る。

#### 結果報告

<2023年度>

- ①デイサービスの機能訓練指導員は、3名体制（作業療法士1名、理学療法士2名）を継続し、リハビリ希望の利用者の満足度を向上させた。
- ②認知症介護実践者研修及び認知症介護実践リーダー研修を修了した者（8名）を配置し、ユニット内において毎月、研修修了者がスーパーバイザーとなり、認知症ケアの拡充を図った。

<2022年度>

- ①デイサービスの機能訓練指導員は、2021年度からは作業療法士及び理学療法士の2名体制だったが、2022年度に新たに1名理学療法士を配置し3名体制とした。
- ②認知症介護実践者研修及び認知症介護実践リーダー研修を修了した者（8名）を配置し、ユニット内において毎月、研修修了者がスーパーバイザーとなり、認知症ケアの拡充を図った。

<2021年度>

- ①デイサービスの機能訓練指導員は、2018年度から1名（作業療法士）を配置していたが、2021年度からは理学療法士1名を加え2名体制とした。
- ②認知症介護実践者研修及び認知症介護実践リーダー研修を修了した者（7名）を配置し、ユニット内において毎月、研修修了者がスーパーバイザーとなり、認知症ケアの拡充を図った。

<2020年度>

- ①引き続き機能訓練指導員（作業療法士）不在時の代替者を育成した。
- ②認知症介護実践者研修及び認知症介護実践リーダー研修を修了した者（7名）を配置し、ユニット内において毎月、研修修了者がスーパーバイザーとなり、認知症ケアの拡充を図った。

<2019年度>

- ①機能訓練指導員（作業療法士）不在時の代替者を育成した。
- ②特別養護老人ホームの介護職員のうち新たに1名が認知症介護実践研修を修了。3名が認知症介護実践リーダー研修を修了した。特別養護老人ホームにおいて、認知症介護実践リーダー研修修了者が7名に達したことから、2020年度より認知症ケアを効果的に機能させる体制を整える。

〈2018年度〉

- ①作業療法士の資格を有する機能訓練指導員を採用し、6種類のリハビリ機器を購入。ほぼ全ての利用者に個別機能訓練を実施した。
- ②特別養護老人ホームの介護職員のうち8名が認知症介護実践者研修を修了。そのうち4名が認知症介護実践リーダー研修まで修了した。

## 短期計画（2023年度）

### 《新型コロナ感染対策》

- ①入館者は必要最低限とすると共に、入館にあたっては体温測定及び手指消毒を義務化し、館内への新型コロナウイルスの侵入の遮断に努める。
- ②面会はアクリル板越し、またはオンライン面会とする。
- ③ドアノブや手すりなどの複数人の接触部は1日2回以上の消毒及び部屋などの換気に努める。
- ④入居者に感染の疑いがある場合は、協力医療機関で速やかにPCR検査を実施すると共に、濃厚接触者については感染症対応として居室対応とする。
- ⑤入居者感染時は、速やかにショートユニットを陽性者対応エリアとして、ゾーニングをおこなった上で保健所と連携を図りつつBCP（事業継続計画）に則り、感染拡大防止に努める。

### 結果報告

- ①入館者は、関係者のみとし、入館時には体温測定及び手指消毒を徹底し、新型コロナウイルスの侵入を遮断した。
- ②新型コロナが5類に移行されたことに伴い、居室内面会を条件付きで開始した。  
面会条件
  - ・6月1日から11月31日の間は、毎週水曜日及び第3日曜日の事前予約制。  
面会時間は、13時30分から15分と14時15分から15分の2枠。
  - ・12月1日から3月31日の間は、曜日条件・事前予約なし。  
面会時間は、15時30分から16時30分の間で30分間の1枠。いずれの期間も面会は、週に1回で入居者1名につき面会者2名、使い捨てマスクとフェースシールド着用、飲食禁止。
- ③ドアノブや手すり等の複数人の接触部は1日2回以上の消毒及び部屋等の換気を徹底した。
- ④入居者の感染の疑い者や濃厚接触者については計画どおり対応した。なお、職員が感染した場合は、発熱や喉の痛みなどの諸症状が全て消失してから72時間経過していることを条件に就業停止期間を10日から5日に変更した（症状が軽快しない場合は最大10日まで就業禁止）。また、同居者が感染した場合は、陽性が判明した翌日に施設負担でPCR検査を受けて陰性の結果、出勤を許可した。その際も連続4日間は施設から支給した抗原検査キットでの陰性確認を求め、感染拡大防止に努めた。
- ⑤2023年度は館内でクラスターの発生は無く、また5類への移行がなされたことから、陽性者は各居室内での感染症対応とした。

### 《設備・備品など》

- ①ケアハウス棟の給湯管の水漏れ対策のため、新たな給湯管を敷設する。
- ②デイサービスの床の改修及び送迎車2台を買い替える。
- ③冷凍庫を増設する。

- ④機能訓練室に下肢エルゴメーターを設置する。
- ⑤特養の車椅子（5台）の肘掛けの固定式のを跳ね上げ式に交換する。
- ⑥入居者を対象とした自由貸し出し用の図書及び書架を備える。
- ⑦家族宿泊室にリモート研修がおこなえる環境を整える。
- ⑧勤怠管理ソフトを導入する。

### 結果報告

- ①5月にケアハウス棟の給湯管を敷設。
- ②4月にデイサービスの床を改修。また11月及び3月に送迎車2台を購入（うち1台JKAの補助）。
- ③12月に厨房の冷凍庫を増設。
- ④4月に機能訓練室に下肢エルゴメーターを設置。
- ⑤6月に特養の肘掛け固定式車椅子（5台）を跳ね上げ式に交換。
- ⑥6月に自由貸し出し用の図書及び書架を設置。
- ⑦2月に家族宿泊室にリモート研修がおこなえる環境を整備。
- ⑧12月に勤怠管理ソフトを導入。

### 行動指針

利用者一人ひとりの生活（24時間365日）を安全で豊かなものにするために『思いやり』を重視した施設をつくります。

### 重点項目

#### 《思いやりの行動・環境》

- ・ 整理整頓・・・ 適切で確実な仕事をおこなうため、職場環境を整えます。
- ・ 清掃・・・・・・ きれいで気持ちの良い空間を提供します。自らごみを拾える職員になります。
- ・ 清潔・・・・・・ 居住空間を衛生的に保ち感染症の蔓延を防ぎます。
- ・ 率先・・・・・・ 関わる全ての方へ率先してあいさつをします。
- ・ 誠実・・・・・・ 決められたことを必ず守ります。

#### 《思いやりのサポート》

- ・ 高い介護技術を習得し、丁寧で痛みを与えない介護を目指します。
- ・ 利用者の気持ちを尊重し、優しく見守り、語りかけます。
- ・ 職員それぞれの役割を尊重し、お互いが信頼して業務をおこなえるように努めます。
- ・ 「報告・連絡・相談」機能を強化し、利用者への対応を的確でスピーディーにします。
- ・ 味覚、視覚、食感や季節感を大切にされた食事を提供します。

### 行動指針への取り組み

重点項目に沿った自己点検・自己評価を3か月に1度全職員に対して継続して実施し、職員として最低限備えなければならない基礎力の向上を図る。

### 結果報告

3か月に1度、各部門（介護、看護、相談、機能訓練、栄養管理、居宅、訪問介護及び事務）の業務内容に沿った目標達成自己評価を実施した。管理者またはリーダー等は所属職員がおこなった評価について相互の認識を同一にするために摺り合わせた後、達成度に沿って



所属職員の動機付けや更なる努力を促す等、より自己評価が高まるようアドバイスした。  
これらの取り組みの結果、重点項目に対する職員全体の自己評価が向上した。

## 業務管理の取り組み

- ①主任以上の管理的立場にある職員は、就業・職務・職責などに関する規程を習得し、所属職員への周知徹底を図る。
- ②各部門においては、既存のマニュアル・手順書など実状を勘案し、シンプルに業務がおこなえるようマニュアル・手順書・様式などを改める。
- ③施設内研修などにより、介護事業・業務に関連する法令を学習させると共に、遵法精神の育成を図る。
- ④各事業所内、各部門内、フロア内、ユニット内において、職員が業務改善、サービスの向上のために課題、問題点などを各委員会などへ提出し、その委員会などで検証した内容や解決策・改善策を現場で円滑に実践できるシステムづくりをおこなう。
- ⑤開設から16年が経過し、機器の故障や不具合が想定されるため、メンテナンス又は買い換えなどが必要になった際は、経理規程に定める契約などの取り扱いに従い運営に支障がない体制を整える。また、緊急対応が必要な場合は、理事長承認の後、経理規程に従って随意契約をおこない、後日理事会で報告する。
- ⑥事業計画については、年度の開始から終了まで可能な限りコンスタントに執行する。

## 結果報告

- ①主任以上の管理的立場にある職員に求められる役割、業務に対する考え方、職員の指導について事例を示し、役職者に求められる役割を再認識させた。
- ②業務を円滑におこなうため、正確・能率的に遂行するルールづくりや現状に即した新しいマニュアル・手順書・様式等に改める等業務改善に努めた。
- ③倫理及び法令順守研修、経営理念及び運営方針研修をとおして遵法精神の育成を図った。
- ④教育委員会や業務改善委員会等において、業務改善や課題の解決を図った。
- ⑤大規模なものは中長期計画にて執行。比較的安価な物品で経年劣化したものは、業務に支障の無いよう順次、補修・交換した。
- ⑥事業計画の進捗状況を、3 か月毎にサービス提供責任者会議において報告させ、進捗状況に応じて適宜アドバイスした。

## 人材育成の取り組み

- ①施設内でおこなわれる業務の全ては、入居者及び利用者への「心地良さの提供」に繋げるためであることを理解させ、業務の意味と目的を意識付ける。
- ②年間研修計画に従い、計画的な研修をおこない人材育成に努める。また、研修での成果や日常の業務の中でより良い支援の事例などを基に、組織的なレベルアップを図る。
- ③経営理念と業務との関連性を自覚させ、福祉サービス提供者としての自覚を促す。
- ④職員のレベルに応じた目標達成度の自己評価をおこない、目指すレベルや目標を共有し、キャリアパスを含め必要な助言指導をおこなう。
- ⑤外部研修にも積極的に参加させ、その結果を伝達研修で共有できるようにする。
- ⑥地域福祉に携わる人材を育成する。
- ⑦ユニットリーダー研修受講者を5名から6名に増員する。

- ⑧福祉用具専門相談員の資格者を1名から2名に増員する。
- ⑨職員の資質向上を図るため、外部講師を招聘し研修を開催する。
- ⑩地域共生社会における施設の役割を果たしていく人材を育成するために地域支援アドバイザー研修を受講させる。

### 結果報告

- ①各種委員会、ユニット会議において、自分達の業務の全てが心地良さの提供に繋がっていることを再認識させ、それぞれの業務の意味と目的を意識付けさせた。
- ②新任職員研修は、3月下旬に各主任及び副主任による座学と現場演習を組み合わせて研修を実施。内容は、リスクマネジメント、救命救急法、感染予防、利用者処遇、地域福祉、職員倫理、接遇等を重点的におこなった。また、職員のレベルに応じた研修を計画的に実施するなど職員の資質向上に努めた。
- ③経営理念については、各スタッフルームでの掲示やエレベーター内、全職員が携帯している名札の裏に記載すると共に朝礼で唱和し、その浸透を図った。また、朝礼や会議等において経営理念にある「尊厳」や「自立支援」は、日々の業務であるケアと共に存在することを例示しながら周知を図った。福祉サービス提供者としての行動については、職員倫理研修等を定期的実施し、自ら行動指針に照らし合わせ、行動するよう図った。
- ④自己評価と他者評価の差異を認識させ、今後に向けたステップアップの目標の明確化を図った。
- ⑤外部研修は、コロナ禍に伴いリモートによる研修となったが、研修内容を広く施設内へ報告できるよう教育委員会にて周知を図った。
- ⑥新型コロナウイルス感染症予防対策のため、当該年度に予定していた介護職員初任者研修及び介護福祉士実務者研修の開催は見送った。
- ⑦ユニットリーダー研修受講予定者が体調不良により、未受講となり増員でなかった。
- ⑧福祉用具専門相談員の資格者を1名から2名に増員した。
- ⑨新型コロナウイルス感染症予防対策のため、外部講師の招聘は見送った。
- ⑩地域支援アドバイザー研修を1名受講させた。

### 就労環境の取り組み

- ①夜間勤務の看護職員を配置し、介護職員の夜間勤務のストレスの軽減を図る。
- ②毎月1日以上の有給休暇の取得を奨励する。
- ③働きやすい職場作りのために職員の要望・意見を徴集し、積極的に対応することで、職場環境の改善を図る。
- ④直接処遇職員配置（入居者数／職員数）は特養1.7、ケアハウス2.7、グループホーム1.5を目指し、手厚い介護サービス環境を整える。
- ⑤夜勤専従（16時間勤務）の介護パート職員を特養各フロア及びケアハウスに配置し、介護職員の夜間勤務の日数や早出・遅出の業務量の軽減を図る。

### 結果報告

- ①夜間勤務の看護職員を配置し、急変時の体制を整えると共に介護職員の負担軽減に努めた。
- ②シフト作成時に、有給休暇を有する職員へ取得を促した結果、84.1%の職員が毎月1日以上の有給休暇を取得した。また、10日以上有給休暇保持者への有給休暇5日以上取

得については100%達成した。

- ③勤務シフト作成時に希望する休みや外部研修のほか、早出・遅出・夜勤等の要望も可能な限り対応した。
- ④直接処遇職員配置(入居者数/職員数)については特養 1.6、ケアハウス 2.5、グループホーム 1.4 を達成し、他施設に比して手厚い介護サービス環境を継続した。
- ⑤夜間専従の介護パート職員を特養、ケアハウス、グループホームに計 15 名確保し、介護職員の夜勤回数を軽減した。

## 処遇改善の取り組み

職種間や社会相場との給与差額を適正化するため、各種手当などを増額して調整する。

### 結果報告

- ・4月より、調整手当及び資格手当を次のとおり増額し、職種間や社会相場との給与差額を適正化した。

生活相談員	10,000 円
事務職員	20,000 円
調理職員	40,000 円
管理栄養士資格	20,000 円
栄養士資格	10,000 円
調理師資格	5,000 円

## 苦情相談の取り組み

- ①ふれあいの里とばた苦情解決委員会第三者委員（2名）の委嘱

- ②担当職員

苦情解決責任者 特別養護老人ホーム施設長

苦情対応責任者 ケアハウス施設長

苦情受付担当者 各事業所管理者、特養相談員・ケアハウス介護副主任

- ③会議開催

毎年5月、11月に定例会議を実施するものとし、その他緊急を要する件については随時実施する。

- ④第三者委員への直接相談

直接相談窓口を利用者に周知し、第三者委員個人の判断で対応できるものとする。その他、施設で直接受け付けた件については報告することを基本とするが、申出者が望まない場合は、個人情報などを伏せるなど配慮する。改善が必要な事項については適切に対応する。

- ⑤意見の活用

意見箱への投函状況については、毎週金曜日に相談員が確認する。早急な対応を要するものなど、必要に応じて第三者委員へ報告する。基本的には、本委員会施設職員メンバーにてお申出内容の確認及び検討をおこない対応する。

- ⑥掲示による苦情などへの回答、公表

施設が受け付けた苦情や意見については、受付方法は問わず、玄関横掲示板に個人情報を伏せ、解決日より1か月間掲示し公表する。ただし、申出者が掲示を希望されない場合は、意向に配慮し掲示はおこなわないものとする。また、職員へは各スタッフステーションに苦情対応体制図とマニュアルを設置し、周知徹底する。苦情受付状況については、ケアサ

ービス責任者会議及び介護リーダー会議にて報告し、組織全体で改善策を講じる。

## 結果報告

### ①ふれあいの里とばた苦情解決委員会第三者委員

村山 浩一郎（福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 教授）

江田 久美子（NPO 法人障害者支援要会代表理事 福音会評議員）

### ②担当職員

苦情解決責任者 特別養護老人ホーム施設長

苦情対応責任者 ケアハウス施設長

苦情受付担当者 相談員・ケアハウス介護副主任・管理者

### ③会議開催

- ・第1回目 5月19日（金）10時

第三者委員、担当職員など、計13名出席

苦情対応報告1件（ケアハウス1）

担当職員より苦情の内容と対応を報告し、第三者委員より質問及び助言をいただいた。

- ・第2回目 11月16日（木）9時

第三者委員、担当職員など、計13名出席

苦情対応報告1件（特別養護老人ホーム1）

担当職員より苦情の内容と対応を報告し、第三者委員より質問及び助言をいただいた。

### ④第三者委員への直接相談

苦情相談なし。

### ⑤意見箱の活用

意見箱0件

### ⑥掲示による苦情などへの回答、公表

施設が受付けた苦情や意見については、受付方法は問わず、玄関横掲示板とホームページに個人情報を伏せ、解決日より1か月間掲示し公表した。ただし、申し出者が掲示を希望されない場合は、意向に配慮し掲示はおこなわなかった。また、職員へは各スタッフステーションに苦情対応体制図とマニュアルを設置し、周知徹底する。苦情受付状況については、ケアサービス責任者会議及びリーダー会議にて報告し、組織全体で改善策を講じた。

## 個人情報管理の取り組み

個人情報を取り扱う者（当施設職員は勿論、実習生やボランティアほか施設に関係する業者等の全ての関係者）は、当施設にて定められている「個人情報に関する基本方針」及び「個人情報の利用目的」に従って、その重要性を十分認識し、適正な取り扱いをする。

## 結果報告

個人情報を取り扱う者は、規程に定められた誓約書を提出させた。また、個人情報管理規程及び特定個人情報取扱規程の遵守を指導した。

## 地域福祉の取り組み

高齢化率が高い北九州市では、高齢者が必要とする福祉サービスを適時適切に受けるために介護に携わる人材の育成が喫緊の課題である。また、厚生労働省が目指す在宅介護を推進

するためにもご家族の介護力を高める必要があることから、北九州市民を対象にした介護職員初任者研修及び介護福祉士実務者研修を無料で開催する。

### 結果報告

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、当該年度に予定していた介護職員初任者研修及び介護福祉士実務者研修の開催は見送った。

## 実習生・ボランティア受け入れの取り組み

### 学生実習

- ①医療福祉分野の専門職を目指す者を受け入れる。
- ②西南女学院の教育支援をする。
- ③自発的に現場体験を通して福祉現場の状況を理解し、将来医療福祉分野に進もうと志望する学生については、状況の許す限り自主実習を受け入れる。
- ④地域の小・中学校の福祉体験や職業体験実習などの福祉教育に関して協力する。

### 実習生の受け入れ

実習校・実習団体	実習期間	人数	目的
西南女学院大学 看護学科	6月20日, 22日	12	1年生早期看護学実習  老年看護学実習Ⅱ
	10月10日～10月12日	6	
	10月31日～11月1日	11	
	11月20日～11月22日	11	
	12月11日～12月14日	12	
	1月9日～1月11日	12	
	1月29日～2月1日	11	
	2月13日～2月15日	11	
	3月4日～3月7日	10	
	3月18日, 19日, 21日	5	

### ボランティア

地域に開かれた施設として地域にお住いのボランティア希望者を積極的に受け入れ、ボランティアと利用者の関わりを大切にする。利用者が地域の方と接することで、施設内の生活でも地域の方々の“暮らし”や“ありさま”などを感じていただき、より有意義な生活をおくることができるよう支援する。

### 結果報告

新型コロナウイルス感染防止対策により施設館内への受け入れは中止したが、施設の敷地内においては、7月に戸畑祇園大山笠及び子ども神輿、9月に千防保育所の敬老の日の慰問があった。

# 特別養護老人ホームとばた

## 介護部門

### 運営目標

要介護状態となり、自宅での生活が困難になった高齢者を、自宅に近い環境で、個々の生活習慣や好みを尊重し、ユニットの方との人間関係を築きながら日常生活が営めるように支援する。

また、戸畑区役所に隣接する利便性を活用し、ご家族や地域との繋がりを継続する機会を提供することにより、リロケーションダメージの軽減に努め穏やかに過ごせるよう配慮する。

日々の生活の中で、小さなことでも自己決定できる環境を整え、一人ひとりの人格や人権を尊重することで精神的にも生活の質が高まるよう支援する。

### 課題

1. 一部の職員に家族間や友人との会話のような言葉遣いが見られる。

### 課題解決への取り組み

- 1-① 丁寧語を主体とした言葉遣いに改善させる。

### 結果報告

- 1-① リーダー会議で接遇にかかわる資料配布や伝達研修を実施すると共に、他部署とのかわりの中での言葉遣い、施設の内線対応も指導した。また、家族面会時のマナーには特に注意するよう指導した。

### 更なる向上のための目標

1. 書面によるマニュアルに映像を用いたマニュアルを追加する（令和7年まで）

### 更なる向上のための取り組み

- 1-① 映像によるマニュアルを勉強会や伝達研修で積極的に活用する。

### 結果報告

- 1-① 起居動作の介助方法、スライディングボードの正しい使用方法、新たに導入したインカムの使用方法や注意点などを映像マニュアルに追加した。

## 看護部門

### 運営目標

入居者は、複数の疾病をかかえリスクも高いため、入居時に預かった薬や診療情報を看護職員間で正しく共有し、協力医療機関である新小倉病院と連携を図る。また、環境の変化に伴い血圧や排便リズムに変調を来すことのないように支援すると共に治療中の疾患が悪化しないよう健康管理に努める。

皮膚科及び歯科は、施設近隣の病院から往診して頂き、地域との繋がりを持つ。

自らの体調不良の状態を訴えることが困難な方については、身体的変化を見逃すことのないよう他部門と連携を図り観察する。また、体調不良やバイタルの変化を捉えたら、迅速に対応し、入居者やご家族に不安を与えることのないよう支援する。

看取り希望の入居者及びご家族には、不安を取り除きその人らしい最期が送れるように支援する。

## 課題

1. 下肢に浮腫や冷感がある入居者に対して、内服だけでは改善できていない。

## 課題解決への取り組み

- 1-① 入浴日以外の日、足浴をして下肢のマッサージをする。

## 結果報告

- 1-① 下肢に浮腫や冷感があり、利尿剤では浮腫や冷感は改善されていない入居者に入浴日以外の日足浴を実施し、足浴後の浮腫や冷感の状態や入居者の感想などを5段階に分けて評価表を作成した。浮腫は、足浴後でも持続して軽減はないが冷感に対しては、保湿剤を塗布しながらマッサージをし、一時的ではあるが血流が良くなり冷感が軽減された。

## 更なる向上のための目標

1. 退院、通院、回診などで医療対応（内服の変更など）が変更した時、口頭ではなく書面で他部門に伝達して情報共有する。

## 更なる向上のための取り組み

- 1-① 主治医の指示で対応が変更した時、内服やケア内容を分かりやすく記入できるシートを作成して他部門に渡す。

## 結果報告

- 1-① 入居者医療対応及び注意事項のシートを作成して退院・通院・回診などの観察事項や観察のポイント及び注意事項を記入し、介護職員への申し送りの際に一緒に渡して情報共有した。

## 相談部門

### 運営目標

入居者及びご家族が初めて接する施設職員であるので、施設に安心して入居できるように優しく思いやりをもって語りかけ、不安なく入居できるように支援する。

相談業務は、施設の印象を作り上げる重要な役割を担っていることを念頭に置き、施設に関わるすべての人に明るい態度で丁寧に対応する。

問題発生時には中心となって、その問題の調査及び解決策を検討し、誠実に行動する。また、施設経営が安定するように稼働率の向上を図る。

意思伝達が困難な入居者に対しては、ご家族と情報の共有を図りながら入居者の意思に近づけるよう配慮する。特に看取りを希望された場合は、できる限り入居者やご家族の思いに沿った対応を心掛ける。

## 課題

1. 退居日から新入居までの期間目標を7日とし、稼働率の安定に努める。

## 課題解決への取り組み

- 1-① 半年で平均14名の入居があるので、6月と12月に優先順位が確定した時点で入居の意志があるのか、入居できる状態であるのかを電話で聞き取り、15名の入居希望者を確保する。その待機者には、月1回程度経過確認の電話を差し上げ、空室が発生した場合の準備などを丁寧に説明し、安心して早期入居ができるように支援する。

## 結果報告

- 1-① 電話および面接で聞き取りをおこない常に3名の面接終了待機者を確保した。さら

に準備などの説明は丁寧におこなうよう努めた。病院で待機していた入居予定者の同室の方に結核診断があり、急に入居が延期になったことや、月に4名の入居があった場合に次の入居者の確定までに時間を要することも発生し、入居までの平均日数は、12.8日で目標を達成することができなかった。

### 更なる向上のための目標

1. 入居者のご家族に施設生活でのご意向を伺い、ご希望の生活が実現できるようにサポートする。また、ご家族へ日頃の入居者のご様子を電話やメールでお伝えする。

### 更なる向上のための取り組み

- 1-① 入居者のご家族に担当者会議へ参加していただけるように調整する。
  - ② 入居者の生活状況や身体状況などをご家族へお伝えする。ご家族が把握している入居者の状態と実際の状態が異なる場合は、より分かりやすくお伝えできるように動画や面会などを利用してご理解いただけるように工夫する。
  - ③ 看取り介護対応中は、日々の状態変化をご家族へ連絡する。状態が悪化してきた場合は、感染防護をした上で直接面会していただく。入居者やご家族が望んだ最期を迎えられるようにサポートする。

### 結果報告

- 1-① 12名のご家族に担当者会議または、それに準じた形での担当者との話し合いに参加していただいた。入居者の状況の詳細をお伝えすることができた。ご家族からの今後の生活に関する希望も伺うことができた。
  - ② 随時、入居者の生活状況や身体状況などを電話やメールを使用し、ご家族へお伝えした。面会が緩和されたので実際に入居者の状況を見ていただくことができるようになった。
  - ③ 今年度は、看取り対応の入居者の状態変化を常にご家族へ伝えると共に希望された日時に居室内での直接面会を調整した結果、2名の入居者とそのご家族が望まれた最期を迎えるサポートができた。

## 機能訓練部門

### 運営目標

入居者のこれまでの人生や生き方を大切にし、その人らしい生活がなるべく長く続けられるように、入居者やご家族の希望を大切にしながら可能となる生活目標を設定し、訓練計画を立て、環境整備や福祉用具、介助用具などを適宜提案する。

### 課題

1. 入居前までの暮らしや過ごし方を継続できる可能性を残している入居者がいる。

### 課題解決への取り組み

- 1-① ご家族も含めて入居者の趣味嗜好を再確認し、その人らしい生活に少しでも近づけるよう支援する。

### 結果報告

- 1-① 趣味嗜好を再確認し、日常生活や機能訓練に取り込むことができたのは、全体の約32%だった。

### 更なる向上のための目標

1. 靴や義肢装具などのサイズチェックをし、入居者の転倒リスクや疼痛、不快感などの軽



減を図る。

### 更なる向上のための取り組み

- 1-① 靴や義肢装具が合っていない入居者はすぐにご家族に連絡し、可能であればより適切なものと交換する。

### 結果報告

- 1-① 靴が合っていない入居者のご家族へ状態を説明した結果、3名の入居者が靴を購入した。また、ご家族より依頼を受け1名の入居者が靴を購入。装具が必要な入居者1名はご家族に状態を説明したが、装具の作成には至らなかった。

## 栄養管理部門

### 運営目標

身体機能、咀嚼・嚥下機能の低下、また様々な疾病のある入居者が安心して食べられる食事を提供し、栄養状態の維持・改善及び疾病の悪化防止を図る。

安心・安全で、味・見栄え・香りから家庭的な雰囲気を感じて頂けるように、食事を提供する。また、こころ豊かな生活を送るための大切な役割を果たせるよう、行事や季節の食材、地域の馴染みある食べ物を取り入れ、季節感あふれる美味しい食事を提供する。

### 課題

1. 管理栄養士が年間をとおして複数名いないことから、栄養強化マネジメント加算が算定されていない月がある。
2. 新規の調理職員や短時間のパート調理員の割合が多く、大量調理ができる職員が少ない。

### 課題解決への取り組み

- 1-① 管理栄養士が年間をとおして複数名いる状態にする。
- 2-① 大量調理ができる調理職員を確保すると共に、オンライン研修などの活用も含め、効率よく大量調理ができるよう、一人ひとりのレベルアップを図る。また、少ない人材でも対応できるように、完全調理品の活用なども検討していく。

### 結果報告

- 1-① 2名の管理栄養士を確保したため、年間をとおして栄養マネジメント強化加算の算定ができた。
- 2-① 調理職員の人員不足が続いており、調理職員の研修参加はできなかったが、管理栄養士は完全調理品の試食会や新調理システムに関する研修に参加することができた。また、カット野菜の導入や完全調理品を味付けや見た目など、今までの献立に影響がない程度に利用した。

### 更なる向上のための目標

1. 新型コロナウイルス感染症により、面会制限など入居者の楽しみが減少している中、今まで以上に季節を感じさせる献立を取り入れ、楽しい食生活が送れるように努める。

### 更なる向上のための取り組み

- 1-① 選択食を継続すると共に、各地域の郷土料理を取り入れるなど、目新しい献立で変化を持たせるなどの工夫をおこなう。

### 結果報告

- 1-① 選択食は毎月継続しており、季節の食材を使用した。また、食中毒に配慮しながら、夕食の通常献立にお刺身を取り入れるなどして、入居者の満足度を高めた。

# ケアハウスとばた

## 介護部門

### 運営目標

日常生活の多岐にわたる場面で、その人らしく過ごせるよう支援すると共にその人にとって安全で過ごしやすい環境となるよう配慮する。また、共に生活するユニットの方と自然な形でコミュニケーションが図られるようにサポートする。

戸畑区役所に隣接し、市街地にある利便性を活かして外出やご家族との関わり、地域社会との繋がりを維持しつつ穏やかな生活を継続できるよう支援する。

一人ひとりの声に耳を傾け可能な限り個別対応とするなど心を満たす支援を目指す。

### 課題

1. 一部の職員に家族間や友人との会話のような言葉遣いが見られる。

### 課題解決への取り組み

- 1-① 丁寧語を主体とした言葉遣いに改善させる。

### 結果報告

- 1-① リーダー会議で接遇にかかわる資料配布や伝達研修を実施すると共に、他部署とのかわりの中での言葉遣い、施設の内線対応も指導した。また、家族面会時でのマナーには特に注意するよう指導した。

### 更なる向上のための目標

1. 書面によるマニュアルに映像を用いたマニュアルを追加する。(令和7年まで)

### 更なる向上のための取り組み

- 1-① 映像によるマニュアルを勉強会や伝達研修で積極的に活用する。

### 結果報告

- 1-① 起居動作の介助方法、スライディングボードの正しい使用方法、新たに導入したインカムの使用方法や注意点などを映像マニュアルに追加した。

## 看護部門

### 運営目標

見守りの必要な方もサービスの選択や意志決定ができるようにサポートする。また、入居前のかかりつけの病院に通院できるように支援する。内服などの管理も、できる事とできない事をご本人とご家族に確認して適切な対応を図る。また、環境の変化に伴い血圧や排便リズムに変調を来すことのないように支援すると共に治療中の疾患が悪化しないよう健康管理に努める。

ご自分の意志で受診を希望される方が多いが、症状を観察してご家族と連携しながら受診の支援をする。また、皮膚科及び歯科は、施設近隣の病院から往診して頂き、地域との繋がりを持つ。

### 課題

1. 歯周病による口腔内のトラブル（出血・自歯の動揺など）が多い。

### 課題解決への取り組み

- 1-① 歯科医師と連携して、歯周病が進行している入居者の口腔ケアをする。

## 結果報告

- 1-① 毎週、訪問している歯科医師に歯周病が進行している入居者の情報を得て口腔ケアを実施した。定期的に口腔ケアを実施すること口腔内の状態や困っていることを把握し早期対応に努めた。また、歯科医師と連携して義歯の安定剤を変更することで口腔内の不快感を解消した。

## 更なる向上のための目標

1. 退院、通院、回診などで医療対応（内服の変更など）が変更した時、口頭ではなく書面で他部門に伝達して情報共有する。

## 更なる向上のための取り組み

- 1-① 主治医の指示で対応が変化したとき、内服やケア内容を分かりやすく記入できるシートを作成して他部門に渡す。

## 結果報告

- 1-① 入居者医療対応及び注意事項のシートを作成して退院・通院・回診などの観察事項や観察のポイント及び注意事項を記入し、介護職員への申し送りの際に一緒に渡して情報共有した。

## 相談部門

### 運営目標

入居者及びご家族が初めて接する施設職員であるので、施設に安心して入居できるように優しく思いやりをもって語りかけ、不安なく入居できるように支援する。

相談業務は、施設の印象を作り上げる重要な役割を担っていることを念頭に置き、施設に関わるすべての人に明るい態度で丁寧に対応する。

問題発生時には中心となって、その問題の調査及び解決策を検討し、誠実に行動する。また、施設経営が安定するように稼働率を意識して業務をおこなう。

ケアハウスの入居者は、健康状態などの変化によりケアハウスでの生活が困難となる場合があるので、状況の変化で入居の継続が困難な場合は本氏やご家族と相談しながら、安心して適切な施設などへ移動できるように支援する。

### 課題

1. 退居日から新入居までの期間目標を7日とし、稼働率の安定に努める。

### 課題解決への取り組み

- 1-① 面接終了待機者へ順位が上がる度に連絡し待機状況や健康状態を確認する。その際、入居準備なども丁寧に説明し、安心して早期入居ができるように支援する。

## 結果報告

- 1-① 順位が上がるたびに連絡を差し上げ、入居準備等の説明をおこなった。1月から3月に7名の退居と入居日前日に急変され入居ができない方が発生した。待機者の方へご連絡を差し上げたが、急な入居が難しく例年に比べ退居から入居までに日にちを要す結果となった。入居までの平均日数は、9.4日で目標を達成できなかった。

## 更なる向上のための目標

1. 入居者のご家族に施設生活でのご意向を伺い、ご希望の生活が実現できるようにサポートする。また、ご家族へ日頃の入居者のご様子をお伝えする。

## 更なる向上のための取り組み

- 1-① 入居者とご家族に担当者会議へ参加していただけるように調整する。
- ② 入居者の生活状況や身体状況などをご家族へお伝えする。ご家族が把握している入居者の状態と実際の状態が異なる場合は、より分かりやすくお伝えできるように動画や面会などを利用してご理解いただけるように工夫する。
- ③ 健康状態などの変化によりケアハウスでの生活が困難となる場合は、ご家族へその後の入居可能施設や医療機関を詳しく説明し、できる限り安心して退居できるように支援する。

## 結果報告

- 1-① 6名のご家族に担当者会議に参加していただいた。入居者の生活状況の詳細をお伝えすることができた。ご家族からの今後の生活に関する希望も伺うことができた。
- ② 随時、入居者の生活状況や身体状況などを電話やメールを使用し、ご家族へお伝えした。面会が緩和されたので実際に入居者の状況を見ていただくことができるようになった。
- ③ 健康状態などの変化でケアハウスの生活が難しくなってきた場合は、早めにご家族へその状態や今後の方向性などをお伝えし、適した入居施設を探すように支援した。骨折などで入院され急に状態が変化した場合には、ご家族にご理解いただくのが難しい状況もみられた。

## 機能訓練部門

### 運営目標

入居者一人ひとりの「その人らしさ」を最重要視する。リハビリにて評価を重ねながら、できるだけご自宅での生活スタイルに近い状態を維持できるようリハビリプログラムを提案・実施する。介護度が変わった方に関しては適宜福祉用具などを提案し、生活の質を下げないよう工夫する。

### 課題

1. 2022年度は、1月時点で転倒・転落事故が38件起きている。

### 課題解決への取り組み

- 1-① 転倒・転落リスクの高い方に関して各ユニット職員と意見交換をし、転倒・転落を予防できるよう福祉用具などを使用しながら歩行手段、居室環境を整え、最終的な転倒・転落の件数の30%減を目指す。

### 結果報告

- 1-① 2022年度は転倒が3月末で合計43件、2023年度は合計45件と約4%増という結果となった。

### 更なる向上のための目標

1. 入居者及びそのご家族に対するアンケートの回答で屋外歩行や車椅子での散歩の回数を増やしてほしいとの要望があったため、個別リハビリ・集団リハビリ以外の時間で実施しながら機能訓練に関する満足度向上を図る。

### 更なる向上のための取り組み

- 1-① 入居者に対し屋外歩行や散歩の希望の聞き込みをおこない、希望者のリストアップをおこなう。実施回数を数値化し入居者にフィードバックをおこなうことで回数の増加を実感していただく。またご家族に対しても実施計画書などに屋外歩行や散歩

に関する記載をすることで実施状況を把握していただく。

## 結果報告

- 1-① コロナウイルスによる外出規制が緩和されたため、ご自身で散歩に出られる方も増え運動機会は増加傾向にあり、屋外歩行を実施し機能訓練に対する満足度も約80%の入居者から「満足」「やや満足」の回答を得ることができた。

## 栄養管理部門

### 運営目標

これまでの食習慣を尊重し、入居者が選択できる食事サービスを提供する。また様々な疾病のある入居者が安心して食べられる食事を提供し、疾病の悪化防止を図る。

安心・安全で、味・見栄え・香りから家庭的な雰囲気を感じて頂けるように、食事を提供する。また、こころ豊かな生活を送るための大切な役割を果たせるよう、行事や季節の食材、地域の馴染みある食べ物を取り入れ、季節感あふれる美味しい食事を提供する。

### 課題

1. 新規の調理職員や短時間のパート調理員の割合が多く、大量調理ができる職員が少ない。

### 課題解決への取り組み

- 1-① 大量調理ができる調理職員を確保すると共に、オンライン研修などの活用も含め、効率よく大量調理ができるよう、一人ひとりのレベルアップを図る。また、少ない人材でも対応できるように、完全調理品の活用なども検討していく。

## 結果報告

- 1-① 調理職員の人員不足が続いており、調理職員の研修参加はできなかったが、管理栄養士は完全調理品の試食会や新調理システムに関する研修に参加することができた。また、カット野菜の導入や完全調理品を味付けや見た目など、今までの献立に影響がない程度に利用した。

### 更なる向上のための目標

1. 新型コロナウイルス感染症により、面会制限など入居者の楽しみが減少している中、今まで以上に季節を感じさせる献立を取り入れ、楽しい食生活が送れるよう努める。

### 更なる向上のための取り組み

- 1-① 選択食を継続すると共に、各地域の郷土料理を取り入れるなど、目新しい献立で変化を持たせるなどの工夫をおこなう。

## 結果報告

- 1-① 選択食は毎月継続しており、季節の食材を使用した。また、食中毒に配慮しながら、夕食の通常献立にお刺身を取り入れるなどして、入居者の満足度を高めた。

# グループホームとばた

## 介護部門

### 運営目標

グループホームの周辺には、公園・スーパー・保育所・障害者地域活動センターなどがあり、様々な方との交流ができる。その交流を通じて、今までの生活スタイルや大切な人との関わりを失わないようにすると共にできることややりたいことを見守り、人と人とのぬくもりを感じながら、穏やかな生活が送れるように支援する。また、地域において認知症のことで困っている方の支えになる場所を目指す。

### 課題

1. マニュアルに沿った業務が徹底されていない。
2. 一部の職員に家族間や友人との会話のような言葉遣いが見られる。

### 課題解決への取り組み

- 1-① マニュアルに沿った業務ができているか確認し、できていないところはその都度指導し、マニュアルに沿った業務ができるようにする。
- 2-① 丁寧語を主体とした言葉遣いに改善させる。

### 結果報告

- 1-① マニュアル通りの業務になっているかを確認し、できていない時は、その都度指導した。特に服薬時はマニュアル通りに実施するように、壁にマニュアルを貼りだして確認しながら服薬介助し、誤薬防止に取り組んだ。
- 2-① 毎月ユニット会議の時は丁寧な声かけをすることを徹底するように伝えた。敬語であっても語尾が強くなっている場合があったので、その都度指導した。

### 更なる向上のための目標

1. コロナ禍のため施設内で過ごすことが多いため、外で過ごす時間を増やす。

### 更なる向上のための取り組み

- 1-① グループホームの中庭に花や実がなる草木を植え、水やりやお世話をすることで、外で過ごす時間を楽しんでいただく。

### 結果報告

- 1-① 一年を通じて中庭の草木に水やりをおこなった。また、施設周辺の散歩の頻度を増やし屋外で過ごす時間を多く確保した。

## 看護部門

### 運営目標

認知症で見守りの必要な入居者の方が、その人らしく暮らせるようになるべく入居前の環境に近い状態を整えて不安がないように努める。

環境が変わることにより、血圧の変動や排便のリズムが崩れないように入居前の生活リズムに近づけるようにする。

協力医院（内科・皮膚科・歯科）などは、施設の近隣である戸畑区内から往診して頂き、地域と繋がりを持つ。

## 課題

1. 歯周病による口腔内のトラブル（出血・自歯の動揺など）が多い。

### 課題解決への取り組み

- 1-① 歯科医師と連携して、歯周病が進行している入居者の口腔ケアをする。

### 結果報告

- 1-① 毎週、訪問している歯科医師に歯周病が進行している入居者の情報を得て口腔ケアを実施した。認知症のため口腔ケアの説明をしても、中々協力が得られず実施するまでに時間を要したが、継続した結果、食後の歯磨きを自主的にするようになり、磨き残しを職員が歯間ブラシで手伝うほど向上した。

### 更なる向上のための目標

1. 退院、通院、回診などで医療対応（内服の変更など）が変更した時、口頭ではなく書面で他部門に伝達して情報共有する。

### 更なる向上のための取り組み

- 1-① 主治医の指示で対応が変化したとき、内服やケア内容を分かりやすく記入できるシートを作成して他部門に渡す。

### 結果報告

- 1-① 入居者医療対応及び注意事項のシートを作成して退院・通院・回診などの観察事項や観察のポイント及び注意事項を記入し、介護職員への申し送りの際に一緒に渡して情報共有した。

## 栄養管理部門

### 運営目標

これまでの食習慣を尊重し、入居者が選択できる食事サービスを提供する。また様々な疾病のある入居者が安心して食べられる食事を提供し、疾病の悪化防止を図る。

安心・安全で、味・見栄え・香りから家庭的な雰囲気を感じて頂けるように、手作りの温かい食事を提供する。また、こころ豊かな生活を送るための大切な役割を果たせるよう、行事や季節の食材、地域の馴染みある食べ物を取り入れ、季節感あふれた美味しい食事を提供する。

### 課題

1. 新規の調理職員や短時間のパート調理員の割合が多く、大量調理ができる職員が少ない。

### 課題解決への取り組み

- 1-① 大量調理ができる調理職員を確保すると共に、オンライン研修などの活用も含め、効率よく大量調理ができるよう、一人ひとりのレベルアップを図る。また、少ない人材でも対応できるように、完全調理品の活用なども検討していく。

### 結果報告

- 1-① 調理職員の人員不足が続いており、調理職員の研修参加はできなかったが、管理栄養士は完全調理品の試食会や新調理システムに関する研修に参加することができた。また、カット野菜の導入や完全調理品を味付けや見た目など、今までの献立に影響がない程度に利用した。

### 更なる向上のための目標

1. 新型コロナウイルス感染症により、面会制限など入居者の楽しみが減少している中、今

まで以上に季節を感じさせる献立を取り入れ、楽しい食生活が送れるよう努める。

#### **更なる向上のための取り組み**

- 1-① 選択食を継続すると共に、各地域の郷土料理を取り入れるなど、目新しい献立で変化を持たせるなどの工夫をおこなう。

#### **結果報告**

- 1-① 選択食は毎月継続しており、季節の食材を使用した。また、食中毒に配慮しながら、夕食の通常献立にお刺身を取り入れるなどして、入居者の満足度を高めた。



# ショートステイとばた

## 運営目標

利用者が望む在宅生活が継続できるように、尊厳を守りながら一人ひとりに寄り添った支援に努める。また、利用者を取り囲む人々と円滑な連携を図ることにより、快適な利用及びご家族の負担軽減に繋げ、満足度の高いサービスの提供を目指す。

## 課題

1. 職員によるリビングでのレクリエーションが少なく、利用者が手持ち無沙汰になる時間帯がある。

## 課題解決への取り組み

- 1-① 利用者個々の生活リズムや好まれる活動などの把握に努め、レクリエーションの種類を増やしてリビングでの充実した時間を提供する。

## 結果報告

- 1-① 利用者個々の生活リズムや好まれる活動などを調べた結果、懐かしの歌謡曲を映像と共に提供することが利用者が一番人気があったため、好きな歌手の情報を集め提供した。また、脳トレや簡単な制作活動に興味を持った利用者も多かったことから、職員と一緒に取り組み手持ち無沙汰にならないように配慮した。その結果、リビングで過ごす時間が長くなり、充実した時間を提供できた。

## 更なる向上のための目標

1. 安心して利用していただき、可能な限り在宅生活が継続していけるような支援を常に意識しながら利用者やご家族とかかわりを持つ。

## 更なる向上のための取り組み

- 1-① 介護支援専門員や他事業所と連携を図り、利用者一人ひとりの情報を共有した上で、利用中も在宅生活に近づけるような支援方法を各部門で意見を出し合い検討し、実施していく。
- ② 送迎時にはご家族へ笑顔で接し、ご利用にあたって何かご希望やご心配はないかなど、職員の方からご家族へ投げかけるような言葉かけをして話しやすい雰囲気作りに努め、傾聴する姿勢を常に持つように心がける。

## 結果報告

- 1-① 在宅生活や他サービス利用状況についての情報収集に努め、利用中でも対応することが可能な内容については、ミーティングで各部門と話し合い、積極的に取り入れた。全く同じ対応とはいかない場合もあったが、利用者やご家族には満足していただけました。
- ② 送迎時には笑顔でご家族へ接し、職員からご家族へ何か要望や心配なことがないかなど声をかけ傾聴に努めたことで、職員がご家族の希望や不安なお気持ちを直に理解することができた。

# デイサービスセンターとばた

## 運営目標

戸畑区・小倉北区・八幡東区・八幡西区・若松区に在住する介護や介護予防の必要な高齢者が、馴染みある地域の中で前向きに自分らしく一日でも長く在宅生活が続けられるよう、様々なリハビリプログラムにより心身機能の維持向上を目指すと共に、外出・外食行事を多く取り入れ社会的孤立感の解消に努める。

また、自然光を多く取り入れた癒しの空間や様々な楽しいアクティビティを提供することにより、デイサービスへの自発的な参加を促してご家族の身体的、精神的負担の軽減に努める。

利用者一人ひとりの思いやその人らしさを尊重し、利用者の立場に立ったサービスの提供をおこなうと共に、入浴では個浴による清潔な湯を提供し、心も体もリフレッシュしていただく。

## 課題

1. 職員がコロナ陽性者又濃厚接触者となった際、レクリエーションの準備などの進捗状況が分からないため、引き継ぎがスムーズにできていない。
2. 感染症予防対策により、外食レクリエーションや外出レクリエーションなどができていない。

## 課題解決への取り組み

- 1-① 感染などで出勤者に変更が生じた場合の業務の役割を明確にし、マニュアルに反映させる。
- 2-① コロナ禍でも活用できるレクリエーションを新たに増やす。

## 結果報告

- 1-① レクリエーションの進捗状況が共有できるマニュアルを作成・活用したことで急な出勤者の変更でもスムーズに業務の引き継ぎがおこなえた。
- 2-① 利用者同士で話し合っただけで回答することもできる多様なドリルを用いることで、利用者同士のコミュニケーションが高まるなどデイサービスならではのサービスの拡充が図れた。

## 更なる向上のための目標

1. 個別機能訓練をさらに充実させる。
2. 選択できるレクリエーションを充実させる。

## 更なる向上のための取り組み

- 1-① 利用者の意思を可能な限り個別機能訓練プログラムに取り入れて、リハビリへの意欲を高める。
  - ② レクリエーションのレパートリーを広げるために利用者アンケートを実施すると共にレクリエーションが選択できる体制を整える。

## 結果報告

- 1-① 体操クラブを取り入れることで、皆で和気藹々と運動することができ参加人数も増え利用者の意欲もみられた。
  - ② 利用者へアンケート調査をおこなった結果、新たなクラブ活動として、絵手紙教室、

大人の学校、体操クラブを増やし、7つのレクリエーションから選択できる体制を整えた。

# ヘルパーステーションとばた

## 運営目標

戸畑区、小倉北区（一部）の方を対象とし、可能な限り住み慣れた地域や自宅にて「より良い生活」が送れるよう支援する。

また、地元に住居するホームヘルパーが訪問し、利用者一人ひとりの価値観や習慣を尊重しつつ利用者やご家族とコミュニケーションを図りながら個々に適したサービスを提供する。

## 課題

1. 利用者数とサービス提供回数が減少している。

## 課題解決への取り組み

- 1-① 居宅介護支援事業所にヘルパー空き情報などを伝え、利用者数75名を目標とする。
  - ② 支援内容の見直しをおこない、必要なサービスを提案することで毎月550回以上の提供回数を目指す。

## 結果報告

- 1-① 居宅介護支援事業所にヘルパー空き情報を毎月発信した。その結果、20名の新規利用者を獲得し、その内13名は他事業所から依頼されたが、新規依頼は減少傾向で75名の目標に対しては平均67.3名と目標には届かなかった。
  - ② 支援内容見直しの提案をして全体数の10%の利用者に対して支援回数を増やすことができたが、施設入所や死亡、長期の入院により在宅復帰が望めなくなった利用者も多く、目標を達成することができなかった。

## 更なる向上のための目標

1. 認知症の利用者に対して一人ひとりの症状を正しく理解して在宅生活の継続を維持する。

## 更なる向上のための取り組み

- 1-① 状態に合わせて在宅生活がスムーズに送れるように支援内容を更新していく。

## 結果報告

- 1-① 更新で介護度が上がった利用者や状態に変化があった利用者に対して、サービス内容の変更や支援の回数追加の提案をして、それぞれの利用者に適した在宅生活が継続できるよう支援することができた。

# ケアプランセンターとばた

## 運営目標

利用者が尊厳保持のもと自立した日常生活を営むことができるよう支援する。また、利用者の選択に基づき、多種多様な事業者から、適切な保健・医療・福祉サービスが、総合的かつ効率的に提供されるよう支援する。

## 課題

1. 事業所登録利用者の有無が担当者以外、把握できていないため、急な利用者の状態変化などに対する対応がスムーズにおこなえていない。
2. ケアマネジメントに付随する事務作業（居宅介護支援費に係る加算・給付管理業務）が特定の職員しか把握できていない。

## 課題解決への取り組み

- 1-① 個々の介護支援専門員の利用者の大きな状態の変化は担当職員外でも対応できるように報告・連絡を職員間でおこない、利用者の要望に対応できるようにする。
  - ② 困難事例への対応に関して主担当者が中心にケアマネジメントをおこないつつ、必要に応じて副担当者と二人体制で対応する。
- 2-① 介護保険の法令順守に努め、給付管理に付随する事務作業を輪番制で実施することにより、職員全員、給付管理業務がおこなえるようにする。

## 結果報告

- 1-① 利用者に関する状況の変化について、日々の業務の中で、情報共有に努め、担当以外の利用者からの問い合わせなどに対応することができた。
  - ② 支援の進捗を適宜、共有、事業所内で対応方法の検討に努め、必要に応じて、包括支援センターへ相談することにより、ケアマネジメントが実施することができた。
- 2-① 運営基準及び加算算定要件について毎月確認。給付管理に付随する事務作業を個人別を実施することができた。

## 更なる向上のための目標

1. 複合課題（認知症高齢者・8050問題・看取り支援・ヤングケアラー支援）に対する対応力を高める。

## 更なる向上のための取り組み

- 1-① 各職員の目標を策定、個々の目標に応じた研修へ年4回以上参加し、伝達研修の実施により、医療・福祉・社会保険制度などのサービス、制度の活用、関係機関との連絡調整の在り方を学ぶ。

## 結果報告

- 1-① 研修計画に基づき、各自4回以上研修に参加し、伝達研修を実施。月1回以上、医療との連携方法、介護保険以外の制度についての理解に努めることができた。

# 委員会運営

## 教育委員会

### 委員会の目標

職員の資質向上のため、職員教育の企画を立案する。

### 今年度の取り組み

感染対応（コロナ対応）についての継続的な研修。

### 結果報告

- ①コロナ含むその他の感染症の状況を報告しその対策を学習した
- ②動画を活用し、主に介護技術や認知症対応、接遇面での学習をおこない資質向上をおこなった

## 排泄・褥瘡委員会

### 委員会の目標

#### 褥瘡対策

褥瘡発生の要因とメカニズムについての理解を深め、褥瘡の予防対策を講じる。

#### 排泄

尊厳を守り、排泄ケアをされる側の気持ちに寄り添った介護を目指す。また、コスト削減に向けて取り組む。

### 今年度の取り組み

#### 褥瘡対策

- ①褥瘡発症者への対応状況を報告する。
- ②褥瘡予防についての研修をする。

### 結果報告

- ①褥瘡発症者への対応状況を毎回各部署に周知した。
- ②研修をし、褥瘡の予防に努めた。

#### 排泄

- ①排泄ケアのマニュアルの更なる改善を目指す。
- ②コスト削減を意識した排泄ケアを検討する。

### 結果報告

- ①各部署において見直しをしてもらい、現況に適したマニュアルに改正した。
- ②勉強会を実施し、コスト削減を意識してもらった。

### 開催状況

毎月第3金曜日13時より開催

## 衛生管理感染防止委員会

### 委員会の目標

感染予防及び対策について検討し、感染の蔓延と被害を最小限に抑える対応を迅速かつ適切に実施する。

## 今年度の取り組み

- ①感染症の予防と対応が迅速にできるように、動画や演習をして理解を深める。
  - ・新型コロナウイルスの感染状況と対応について 毎月
  - ・手洗い研修 8月
  - ・インフルエンザ 11月
  - ・ノロウイルス 12月
- ②各ユニットの備品とその消毒状況のチェックのラウンドを3か月に1回実施すると共にマニュアルを整備する。
- ③感染予防の外部研修に参加し、他施設の感染対策の状況や新しい知識などを学び、委員会で伝達研修をする。

## 結果報告

- ①
  - ・新型コロナウイルスの感染状況と対応について
    - 北九州市の定点報告を委員会で伝えて、平時の感染予防対策の意識を高めると共に感染症の蔓延防止に努めるように促した。
  - ・手洗い研修
    - 10月にBCPシミュレーションとして全体研修をした。保健所から手洗いのCDとブラックライトを借りて手洗いの手順と洗い残し部分の確認を各自体験した。
  - ・インフルエンザ
    - 11月に特養で感染性胃腸炎の感染者が利用者4名・職員6名発症したため委員会は、12月に延期した。
  - ・ノロウイルス
    - 12月にインフルエンザとノロウイルスの動画研修を実施にした。  
11月に感染性胃腸炎の罹患者が出たため、保健所の立ち入り検査があった。  
その結果と消毒液の作り方の資料を配布して注意事項を報告した。また、便座の消毒のため新たに便座クリーナーを購入した。
- ②各ユニットの備品とその消毒状況のチェックのラウンドを今年度は、委員会の開催回数の変更で7月・11月の2回実施した。その結果、委員より定期的にラウンドをおこなうことで環境整備についても重要性を感じた。また、各部署へのラウンドは他部署のよいところに気付いて勉強になった、との意見が聞かれた。また、マニュアルの見直しで環境整備手順書に便座の消毒を追加した。
- ③今年度は、看護職員が感染対策の指導のための研修に参加した。  
研修の中で个人防护具の着脱を実際におこない、防護具の適正使用のポイントを学び、BCPの全体研修で伝達研修をした。

## 開催状況

毎月第3金曜日13時より開催

## サービス改善委員会

### 委員会の目標

「利用者一人ひとりの生活(24時間365日)を安全で豊かなものにするために『思いやり』を重視した施設をつくります。」

施設行動指針を目標に各部署の職員と共に利用者及びご家族の満足度の高い施設を目指す。

利用者及びご家族のアンケート調査をおこない、各部署が問題点に対して共通の認識をもち、適切な業務遂行に努める。

施設周辺地域の清掃活動を実施し地域貢献活動に取り組む。

### 今年度の取り組み

- ①行動指針をもとに『思いやり』と『信頼』の行動について具体的に月の目標を作成し、啓発活動をする。その後の自己評価もおこなう。リーダークラス職員が参加しているので、各月担当を決めアウトプットを実践し、プロとしての高い介護技術や知識を習得する。
- ②将来の介護人材不足を見据え、併せて丁寧で痛みを与えない介護を目指すため、テクノロジーや介護ロボットの活用を具体的に検討する。介護機器セミナーに参加し見識を広め、可能であれば、テクノロジーやロボットを使用している他施設を見学する。
- ③支援内容の発表でインプットとアウトプットを経験し、情報や知識を活かして支援にあたれるようにする。
  - ・特養 5月
  - ・ケアハウス 7月
  - ・グループホーム 9月
  - ・デイサービス 11月
- ④利用者と職員の安全を考え、備品の安全状況の確認と環境整備及びコロナ禍の感染症対策のチェックと啓発をおこなう。
- ⑤利用者ご家族アンケート調査と結果を評価。改善などの対策を検討し実施する。

### 結果報告

- ①各事業所委員が、施設行動指針をもとに業務内で不十分と考えられる事柄を選定し、2か月毎に目標設定をおこなった。例えば、『挨拶』気持ちのいい挨拶を心掛けましょう。『報告・連絡・相談』利用者への対応を的確にスピーディーなものにしましょうなど。リーダーが課題を意識し部下へ伝え、実行すること。また、その取り組みができているかを確認するという流れを実行し、業務改善に努めた。
- ②介護機器展示会に全委員が参加した。実際のものを見て、体験し、説明を受けることで、業務に利用できるかを検討することができた。
- ③各事業所からの支援内容報告会は、利用者支援に関わる課題に直結して、大変参考になると各委員からの感想があった。支援を真似して新たに組み込んだ事業所もあった。
- ④各ユニットの備品安全チェック（修繕確認）をおこない、備品を不安全な状況で放置しないように確認をおこなった。感染症については新型コロナウイルス感染症に特化して情報や取り組みの確認をおこなった。
- ⑤入居者アンケート調査を実施した。結果については、ホームページと広報誌へ掲載、各ユニットへ掲示した。ご意見に対する改善策は、委員が改善策を検討し、できる限り善処した。

### 開催状況

毎月第2金曜日13時より開催



## 食事サービス向上委員会

### 委員会の目標

利用者の意見や嗜好調査、検食をもとに、提供した食事内容について評価し献立に反映させ食事の改善を図る。また、よりおいしく適温で食べて頂けるように、行事食や食事形態、配膳及び食事提供方法について協議し改善に取り組む。

### 今年度の取り組み

- ①利用者から食事内容に対する意見の回収や検食簿、嗜好調査などから改善策を検討し、日々の献立や行事食が満足のいく食事となるよう努める。
- ②食中毒予防や衛生管理の徹底に努める。

### 結果報告

- ①嗜好調査を2回実施し、敬老の日、クリスマス、正月の行事食は利用者の食べたい献立のアンケートをおこない、利用者のご意見を取り入れた行事食を提供した。また、利用者や職員の意見を参考に、食材の見直しや、調理方法の検討をおこない、利用者が安全でおいしいと思える食事となるように努めた。
- ②食中毒予防や栄養補助食品の紹介をおこなうと共に、水分補給や効率よく栄養を摂る勉強会をおこなった。

### 開催状況

毎月第4金曜日13時より開催

## 行事委員会

### 委員会の目標

季節を感じられる行事の企画を立案する。

### 今年度の取り組み

昨年度の反省点を踏まえた内容とすると共にコロナ禍の中、感染予防に配慮した行事を立案する。

### 結果報告

- ①四季折々にあった行事の立案、実施が出来た。戸畑祇園山笠、太鼓の打ち込みも再開することが出来た。
- ②利用者のコロナやインフルなど施設内での体調不良者数を考慮し、行事を中止し感染予防に努めた。

### 開催状況

毎月第4金曜日13時より開催

## 安全管理委員会

### 委員会の目標

利用者が施設で安心・安全に生活できるよう、個々の周囲に潜むリスクや、利用者の状態に応じて起こりうるリスクを排除する。また、ヒヤリ・ハットを重視した取り組みにより、事故を限りなくゼロに近付ける。

### 今年度の取り組み

ヒヤリ・ハットや事故の中で、特に重要な事例を委員会で情報交換し、同様の再発を抑制する。

## 結果報告

今年度、重大事故である骨折は13件であった。昨年度の骨折件数は13件で、骨折事故の件数は前年同様の件数となった。特養では同じ利用者の骨折もある。ケアハウスでは、転倒骨折により退居する事例が発生。また、転倒事故が増加傾向にあったので、機能訓練の内容の見直しや回数を増やすなどをおこなったことにより、下半期では転倒件数は減少した。その他、他人の薬を飲ませるといった重大な誤薬事故も発生している。グループホームでは骨折事故が増加しており、注意喚起している。引き続きヒヤリ・ハットや事故の情報を職員間で共有し、対応法の意見を出し合って事故防止に努めていく。

※事故件数などは、43頁の表<ヒヤリ・ハット及び事故報告>を参照。

## 開催状況

奇数第1金曜日13時より開催

## 身体拘束・虐待防止委員会

### 委員会の目標

身体拘束や心理的虐待となる言動や利用者の身体的・精神的な弊害を理解し、職員に周知する。利用者の尊厳を守り、身体拘束・心理的虐待ゼロを目指す。

### 今年度の取り組み

- ①利用者の行動をできる限り自由とする。リスクのある利用者に対しては、センサーやセンサーマット、緩衝マットなどを使用することにより利用者の安全を確保し、現状の身体拘束ゼロを維持する。
- ②虐待とまではならないが、グレーゾーンとなるような対応を検討し、曖昧な対応とならないようにする。
- ③日々の介護で身体拘束や不適切な介護をしていないか検証し、利用者の尊厳を守る介護を目指す。

## 結果報告

- ①利用者一人ひとりのリスクを考え、検討し、生活にあったセンサー類・緩和マットを使用することで、安全を確保した生活の中で身体拘束ゼロを維持した。
- ②職員の意識の中でグレーゾーンとなるような対応とは何なのかを洗い出し、文書などで明確にすることにより意識づけをおこない、曖昧な対応を行わないようにした。
- ③不適切ケアの一つに当たる声掛けに焦点を当て、利用者に対し慣れ慣れしさや命令口調になることを防ぐ為、声掛け方法の言い換え例などをリストにして作成し、各部署に配布。職員間で周知し、適切な声掛けがおこなえるようにした。

## 開催状況

毎月第1金曜日13時より開催

## 資料編

### 職員配置状況（2024年3月1日現在）

#### 特養・ショート職員配置

	施設長	相談員	計画作成	看護	介護	栄養管理	機能訓練	調理	事務
当該施設基準	1	1	1	5	21	1.4	1	—	—
配置人数 (常勤換算)	1	2	4	10 (7.54)	50 (41.04)	2 (1.45)	1	7	3

常勤換算 看護はデイサービスの0.4を除く

#### ケアハウス職員配置

	施設長	相談員	計画作成	看護	介護	栄養管理	機能訓練	調理	事務
当該施設基準	1	1	1	2	12	—	1	1	1
配置人数 (常勤換算)	1	2 (1)	1	3 (2.6)	19 (13.30)	—	1	3	1

常勤換算 相談は施設長の0.5を除く 介護は相談の0.5を除く

#### グループホーム職員配置 ※内、1名は介護支援専門員とする

	施設長	相談員	計画作成	看護	介護	栄養管理	機能訓練	調理	事務
当該施設基準	2	—	2※	1	8	—	—	—	—
配置人数 (常勤換算)	2	—	2	1	18 (11.9)	—	—	2	1

常勤換算 介護は管理者の0.2及び計画作成の0.2を除く

#### デイサービス職員配置

	管理者	相談員	計画作成	看護	介護	栄養管理	機能訓練	調理	事務	送迎
当該施設基準	1	2	—	1.4	8	—	2.5	—	—	—
配置人数 (常勤換算)	1 (0.5)	2 (2)	—	5 (1.4)	12 (10.46)	—	7 (2.65)	—	1	—

常勤換算 看護は特養の0.4を含む

#### ケアプラン職員配置

	管理者+ケアマネ	事務
当該施設基準	—	—
配置人数	3	—

ヘルパー職員配置

	管理者	サービス提供責任者	登録ヘルパー	事務
当該施設基準	1	2	—	—
配置人数	1	2	10	—

ふれあい村戸畑職員配置

	LSA
当該施設基準	1
配置人数	2

## 職員研修状況

### 相談部門（内部研修）

研修名	研修日	参加人数
身体拘束、適正化の研修	5/9, 11/2, 11/14	6名
事故発生防止の為の研修	6/9, 3/5, 3/13	6名
看取り、オンコール研修	7/4	3名
感染症及び食中毒並びに災害に係る BCP 研修と、感染症の防止及びまん延防止の研修	8/8, 12/5	6名
感染症及び災害に係る BCP シミュレーションと、感染症の防止及びまん延防止の為のシミュレーション研修	10/6, 10/13, 2/6	6名
虐待防止の為の研修	1/9, 1/25	3名

### 相談部門（ウェブ研修）

研修名	研修日	参加人数
とっさの怒りの対処法～怒りのメカニズムと心理トレーニング～	8/17	1名
令和 6 年度介護保険法改正の最新動向の解説! どうなる!?介護保険制度	8/25	1名

### 相談部門（外部研修）

研修名	研修日	参加人数
施設見学（介護付き有料老人ホームオケストラ）	5/1	3名
CareTEX 福岡'23 展示場見学と専門セミナー	10/4	1名

### 介護部門（内部研修）

研修名	研修日	参加人数
新任研修	4/3	10名
介護技術研修（移乗）	4/26, 4/27, 5/10, 5/11	29名
口腔ケア研修	4/7, 5/5, 5/23, 6/2, 7/7, 8/5, 9/15, 10/5, 10/24, 11/3, 12/8, 1/12, 2/23, 3/1	14名
身体拘束、適正化の研修	5/9, 5/26, 11/2, 11/14	106名
接遇・マナー研修	5月, 11月	141名
事故発生防止の為の研修	6/7, 6/9, 3/5, 3/13	110名
救急救命講習	6/30	8名
人権研修	6月	119名
看取り、オンコール研修	7/4, 7/25	64名
リーダー研修	7/10, 7/19	7名
認知症研修	7月	109名
感染症及び食中毒並びに災害に係る BCP 研修と、感染症の防止及びまん延防止の研修	8/8, 8/17, 12/5, 12/20	114名

虐待防止の為の研修	9/6, 9/21, 1/9, 1/25	104名
個人情報保護・プライバシー研修	8月	115名
腰痛予防、KY活動	9月	118名
感染症及び災害に係るBCPシミュレーションと、感染症の防止及びまん延防止の為のシミュレーション研修	10/6, 10/13, 2/6, 2/20	100名
経営理念・基本方針研修	10月	77名

### 介護部門（ウェブ研修）

研修名	研修日	参加人数
身体拘束、適正化の研修	5/26, 5/31	22名
介護現場で役立つ薬の基礎知識	5/23	3名
介護現場における怒りと上手く付き合う方法	5/24	2名
職場内研修を効果的に実施できる研修技法	6/14	1名
事故発生防止の為の研修	6/25, 6/29, 3/19, 3/22, 3/24	12名
感染症予防研修	6/26, 7/5	4名
看取り、オンコール研修	7/27	10名
介護現場における生産性向上についての研修	8/10	1名
とっさの怒りの対処法～怒りのメカニズムと心理トレーニング～	8/17	1名
令和6年度介護保険法改正の最新動向の解説！ どうなる！？介護保険制度	8/25	1名
虐待防止の為の研修	9/8, 9/22, 1/27, 3/24	14名
認知症の方への介護技術	10/18	2名
感染症及び食中毒並びに災害に係るBCP研修 と、感染症の防止及びまん延防止の研修	10/26	11名
メンタルヘルス研修	12/14	2名
感染症及び災害に係るBCPシミュレーションと、感染症 の防止及びまん延防止の為のシミュレーション研修	12/30	11名
眠りスキャン導入事例研修	2/7	3名
TENAオンライン勉強会 褥瘡予防におけるポジショニング研修	3/7	1名

### 介護部門（外部研修）

研修名	研修日	参加人数
介護支援専門員 更新研修専門Ⅰ	6/16～8/31	1名
CareTEX 福岡'23 展示場見学と専門セミナー	10/4, 10/5	10名
ユニットリーダー研修	10/17～10/20	1名
介護支援専門員 更新研修専門Ⅱ	11/28～2/9	2名

**看護部門（内部研修）**

研 修 名	研 修 日	参加人数
新任研修	4/10	1名
身体拘束、適正化の研修	5/9, 5/26, 11/2, 11/14	13名
事故発生防止の為の研修	6/7, 6/9, 3/5, 3/13	12名
看取り、オンコール研修	7/4, 7/25, 7/29, 7/31	14名
感染症及び食中毒並びに災害に係る BCP 研修と感染症の予防及びまん延防止の研修	8/8, 8/17, 12/5, 12/20	28名
虐待防止の為の研修	9/6, 9/21	13名
感染症及び災害に係る BCP シミュレーションと感染症の防止及びまん延防止の為のシミュレーション	10/6, 10/13, 2/6, 2/20	26名

**看護部門（ウェブ研修）**

研 修 名	研 修 日	参加人数
身体拘束シリーズ 1	5/31	1名
事故発生防止への取り組み	6/11	1名
私達はコロナとどう暮らす	6/22	1名
これからの排尿ケアと尿路感染症予防の在り方	7/28	1名
急変前兆候を見極めるコツ, 利用者の何か変に敏感になろう	11/30	1名
心不全の基本的理解と対応, 心不全疾病者を支える	11/30	1名
感染症予防研修（後期）	12/12	1名
看護職のためのユニットケア研修	2/6	1名
令和 5 年度第 2 回医療安全対策研修会	3/16	1名

**看護部門（外部研修）**

研 修 名	研 修 日	参加人数
救命救急法	6/30	2名
SARAYA 感染対策指導者育成講座	12/9	1名

**機能訓練部門（内部研修）**

研 修 名	研 修 日	参加人数
身体拘束等、適正化の研修	5/26, 11/2	9名
事故発生防止の為の研修	6/7, 6/9, 3/5, 3/13	10名
看取り、オンコール研修	7/25	5名
感染症及び食中毒並びに災害に係る BCP 研修と感染症の予防及びまん延防止の研修	8/8, 8/17, 12/5, 12/20	9名
虐待防止の為の研修	9/6, 9/21, 1/9, 1/25	9名
感染症及び災害に係る BCP シミュレーションと感染症の防止及びまん延防止の為のシミュレーション研修	10/6, 10/13, 2/6	8名

**機能訓練部門（ウェブ研修）**

研 修 名	研 修 日	参加人数
身体拘束等、適正化の研修	5/30	1名
感染症及び食中毒並びに災害に係る BCP 研修と感染症の予防及びまん延防止の研修	8/28	1名
虐待防止の為の研修	9/30	1名
リスクマネジメントセミナー	10/6	1名
感染症及び災害に係る BCP シミュレーションと感染症の防止及びまん延防止の為のシミュレーション研修	2/26	2名

**機能訓練部門（外部研修）**

研 修 名	研 修 日	参加人数
CareTEX 福岡'23 展示場見学と専門セミナー	10/5	1名

**栄養部門（内部研修）**

研 修 名	研 修 日	参加人数
新任研修	4/3	2名
救急救命講習	6/30	3名
感染症及び食中毒並びに災害に係る BCP 研修と感染症の予防及びまん延防止の研修	8/8, 8/17, 12/5, 12/20	15名
感染症及び災害に係る BCP シミュレーションと感染症の防止及びまん延防止の為のシミュレーション研修	10/6, 10/13	14名

**栄養部門（ウェブ研修）**

研 修 名	研 修 日	参加人数
感染症及び災害に係る BCP シミュレーションと感染症の防止及びまん延防止の為のシミュレーション研修	2/8, 2/15, 2/26	14名

**栄養部門（外部研修）**

研 修 名	研 修 日	参加人数
完全調理品の展示会	2/14	1名
厨房の人手不足に寄り添うセミナー	3/25	1名

**居宅介護支援部門部門（内部研修）**

研 修 名	研 修 日	参加人数
ケアマネジメントにおいて事業所として心掛けること・利用者へ対して心掛けること	5/8	3名
苦情（クレーム）の4つの要因	5/23	3名
暫定プランの作成について	6/15	3名
相談援助技術について	6/22	3名
インテークについて（初回面接）	7/7	3名
権利擁護について（事例）	7/11	3名
事例で考えるケアマネジャーの業務範囲	7/20	3名



高齢者の生活トラブルについて	8/3	3名
災害時におけるケアマネジャーの役割について	8/10	3名
訪問介護における院内介助の取り扱いについて	9/12	3名
老企 29 号居宅サービス計画記載要領について	10/17	3名
運営基準を厳守したケアマネジメントについて	11/7	3名
障害サービス⇒介護保険サービスへの移行	11/21	3名
ターミナル期のケアマネジメントの連携	12/12	3名
介護休業について	12/19	3名
緊急時のケアマネジメントの流れについて	1/16	3名
訪問看護の知識（訪問看護におけるリハビリ）	2/6	3名
クレームに対する初期対応	3/21	3名

#### 居宅介護支援部門部門（ウェブ研修）

研修名	研修日	参加人数
サービス担当者会議に必要なファシリテーションスキルの向上	9/20	1名
サービス担当者会議を通じた人材育成と事業所管理	10/13	1名
第3回ワークサポートケアマネジャー養成研修	12/16, 12/17, 1/27, 1/28	1名
福岡県介護支援専門員実務研修見学実習受入れに係る説明会	2/26	1名
2024年度介護保険制度改正セミナー「居宅介護支援事業所の重要ポイント」	3/9	1名
カスタマーハラスメント対策セミナー	3/14	1名

#### 居宅介護支援部門部門（外部研修）

研修名	研修日	参加人数
「令和6年度介護保険制度改正の傾向を学ぶ」	6/25	1名
「ケアマネジメントの質を高めるために」	7/20	1名
援助力を高める事例検討会「家族介護支援」	8/22	1名
令和5年度第2回ケアマネジメント研修会 「生活習慣病・重症化予防」	9/22	1名
令和5年度第3回ケア真地面と研修会 「災害に向けた備え」	11/16	1名
戸畑共立病院 在宅介護連携会議 「知っておきたい放射線治療のこと」	2/8	1名
令和5年度第4回ケアマネジメント研修会 「聴覚障害のある人を理解する」	2/15	1名
相談面接技術に関する研修会	2/27	1名
権利擁護に関する研修会	3/13	1名

**訪問介護部門（内部研修）**

研 修 名	研 修 日	参加人数
クレーム・苦情対応	4月	9名
身体拘束、適正化の研修	5/9, 5/26, 11/2	4名
認知症ケア・困難事例の対処法	5月	9名
事故発生防止の為の研修	6/7, 6/9	2名
食中毒予防の三原則 熱中症の予防&緊急時対応	6/29	8名
虐待かもしれないと感じた時どうする 身体拘束を防止するための基本	7/28	4名
感染症及び食中毒並びに災害に係る BCP 研修と 感染症の予防及びまん延防止	8/17, 12/5, 12/20	3名
プライバシー保護はなぜ必要なのか プライバシー	8/25	4名
認知症ケア改めて考えたいこと	9月	9名
感染症及び災害に係る BCP シミュレーションと感染症の 防止及びまん延防止の為のシミュレーション研修	10/13	2名
緊急時の対応、事故の原因と対策	10/26	5名
接遇の基本・言葉使いを見直そう 身体拘束にあたる3つのロック	11/29	5名
ヒヤリ・ハット報告書、感染症・低体温症 サービス提供記録の書き方	12/21	5名
倫理・法令遵守、ストレッチ体操	1/25	3名
感染症及び災害に係る BCP シミュレーションと感染症の 防止及びまん延防止の為のシミュレーション研修	2/6	2名
低栄養と誤嚥の予防	2/26	4名
高齢者の身体を知る	3/29	4名

**訪問介護部門（ウェブ研修）**

研 修 名	研 修 日	参加人数
福祉施設の身体拘束	5/30	1名
介護職員処遇改善加算の仕組みについて	5/30	1名

**訪問介護部門（外部研修）**

研 修 名	研 修 日	参加人数
災害 BCP の作成について	7/26	2名
令和6年度 介護報酬改定について	3/19	1名

**事務部門（内部研修）**

研 修 名	研 修 日	参加人数
感染症及び食中毒並びに災害に係る BCP 研修と感染症の予防及びまん延防止の研修	8/8, 8/17, 12/5, 12/20	12 名
感染症及び災害に係る BCP シミュレーションと感染症の防止及びまん延防止の為のシミュレーション研修	10/6, 10/13, 2/6, 2/20	12 名

**事務部門（ウェブ研修）**

研 修 名	研 修 日	参加人数
生産性向上の取組に関する介護事業所向けセミナー 2023	8/10	1 名
令和 5 年度の雇用関係助成金の概要を知ろう！	9/19	1 名
BCP 作成研修会自然災害編(風水害・地震)	10/25	1 名
令和 5 年度 労務管理研修	11/7	1 名
令和 5 年度 「公正採用選考人権啓発推進員研修及び人権を考える企業のつどい	12/28	2 名
令和 6 年 障がい者雇用促進セミナー	1/22	2 名
令和 6 年度介護報酬改定のポイント	2/6	3 名

**事務部門（外部研修）**

研 修 名	研 修 日	参加人数
令和 5 年度新規学校卒業者求人研修会	5/17	1 名
令和 5 年度 フレッシュマン防災講座	6/16	1 名
令和 5 年度 防火管理分科会特別研修会	7/31	1 名
安全運転管理者講習	8/4	1 名
CareTEX 福岡' 23 展示場見学と専門セミナー	10/4	1 名
戸畑区社会福祉施設・病院等防災研修会	10/10	1 名
令和 5 年度廃棄物管理責任者講習会	10/16	1 名
北九州地区障害者雇用サポート交流会	10/17	2 名
人材開発支援助成金を活用しよう！	10/24	1 名
RICOH Presentation2023in 北九州	11/7	1 名
令和 5 年度 防災施設視察研修	11/10	1 名
令和 5 年度事務員研修	12/22	1 名
令和 6 年度障害者雇用納付金制度事務説明会	2/13	2 名

## ヒヤリ・ハット及び事故報告

※皮下出血とは、皮下出血3cm未満

※その他とは、3cm以上の皮下出血、表皮剥離、誤配膳、誤嚥など

	ヒヤリ・ハット	皮下出血	転倒・転落	その他
特別養護老人ホーム 3階	111	32	15	11
特別養護老人ホーム 4階	112	28	10	9
特別養護老人ホーム 5階	90	15	9	14
特別養護老人ホーム 6階	65	25	21	12
ケアハウス	126	26	53	14
グループホーム	48	0	20	3
デイサービス	108	2	7	4
計	660	128	135	67

## 各事業所利用状況など

### 特別養護老人ホーム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	93.1	94.6	94.0	92.5	93.8	91.0	92.6	91.8	92.0	92.6	95.6	96.9	93.4
昨年度	91.6	89.3	92.3	96.4	95.4	95.0	92.2	90.2	94.0	90.7	85.6	87.4	91.7

### ケアハウス

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	93.9	98.5	97.5	97.2	97.7	98.8	100.0	96.5	94.1	90.9	95.3	98.8	96.6
昨年度	97.2	99.2	99.8	99.5	100.0	99.8	97.6	95.2	99.5	98.2	93.3	92.7	97.7

### グループホーム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	98.0	98.2	94.3	100.0	99.8	97.6	95.7	98.1	99.8	100.0	95.4	89.2	97.2
昨年度	100.0	100.0	100.0	98.9	99.6	99.6	93.0	85.2	86.2	90.7	96.0	97.1	95.5

### ショートステイ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	79.7	73.2	76.3	74.5	75.2	87.0	91.9	94.7	87.7	79.7	85.9	96.1	83.5
昨年度	87.3	92.6	89.3	92.6	76.8	51.0	82.3	82.3	53.9	21.0	70.4	68.4	72.3

## デイサービスセンター

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用率	61.4	60.0	61.3	59.2	60.2	59.7	61.1	56.8	59.1	55.7	57.2	58.0	59.1
昨年度	70.2	74.7	81.3	70.8	69.6	70.3	71.2	68.5	66.2	64.5	65.2	65.5	69.8
利用者数	96	97	96	93	93	91	95	90	95	88	91	92	93.1
昨年度	97	101	104	111	109	107	109	107	105	101	101	100	104.3
月合計利用者数	795	838	826	801	801	789	819	760	790	716	737	777	787.4
昨年度	742	760	800	838.3	864	877	888.7	892	891.7	886.1	879.2	881.8	850.1
1日平均	31.8	31.0	31.8	30.8	30.8	30.3	31.5	29.2	30.4	28.6	29.5	29.9	30.5
昨年度	29.7	31.1	33.9	36.7	35.8	36.2	36.9	35.2	34.2	33.4	33.8	33.7	34.2
利用率 (生活支援型)	36.0	34.6	37.8	39.7	24.4	16.7	32.1	26.9	28.2	26.7	29.3	29.5	30.2
昨年度	53.3	40.0	44.9	41.0	33.8	35.9	42.3	32.1	35.9	40.0	38.9	33.3	39.3
体験者数	5	1	5	3	5	4	8	3	8	12	9	8	5.9
昨年度	4	8	9	2	5	4	3	2	3	1	4	3	4.0
新規利用者数	1	3	2	2	5	1	3	1	4	4	11	4	3.4
昨年度	3	7	5	6	0	2	2	3	0	1	1	1	2.6

## ケアプランセンター

### プラン件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数	90	90	89	89	91	95	96	97	97	102	104	110	95.8
昨年度	119	134	139	144	150	149	146	116	111	111	109	111	137.5
介護	79	79	77	76	77	80	82	82	81	86	88	95	81.8
予防支援	7	8	8	9	10	9	8	8	8	8	8	9	8.3
予防ケアマネジメント	4	3	4	4	4	6	6	7	8	8	8	6	5.7
平均給付管理数	41.3	27.7	27.0	26.8	27.3	28.2	28.7	28.7	28.3	30.0	30.7	33.2	29.8
昨年度	26.6	29.8	31.0	31.8	33	33.1	32.1	34.7	34.0	33.0	32.3	33.2	32.0
新規利用者数	0	3	5	0	6	7	3	3	6	9	5	7	4.5
昨年度	12	17	7	9	7	9	2	6	3	3	2	5	6.8

### 施設内利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
ショートステイ	7	9	9	11	10	11	12	12	11	7	6	8	9.4
昨年度	11	12	11	12	12	11	10	9	9	4	7	8	9.7
デイサービス	20	22	22	22	19	22	22	22	22	22	22	22	21.1
昨年度	32	31	34	35	34	35	35	25	25	23	24	24	29.7
ヘルパーステーション	18	19	21	21	21	22	22	22	22	22	22	23	21.3
昨年度	23	23	26	27	27	28	29	24	26	23	23	23	25.2

プラン件数に対する施設内利用率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
施設内利用者計	45	50	52	54	50	55	56	56	55	51	50	53	52.3
利用率	50.0	55.5	58.4	60.7	55.0	57.9	58.3	57.7	56.7	50.0	48.1	48.2	54.7
昨年度	66	66	71	74	73	74	74	58	60	50	54	55	64.6
	55.5	49.3	51.4	51.4	48.7	49.7	50.7	50.0	54.1	45.0	49.5	49.5	50.4

ヘルパーステーション

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
サービス提供回数	501	549	522	508	494	503	520	523	479	424	407	417	487.3
昨年度	524	531	523	470	534	515	531	491	457	401	446	525	495.7
介護・予防・障害	68	69	68	71	67	69	66	66	65	68	65	66	67.3
昨年度	76	74	74	74	71	71	71	72	68	71	67	69	71.5
利用者数	75	78	77	82	75	81	77	79	76	78	73	78	77.4
昨年度	83	83	85	83	80	81	78	82	79	79	77	79	80.8
平均給付管理数	34.0	34.5	34.0	36.0	33.5	34.5	33.0	33.0	32.5	34.0	32.5	33.5	33.8
昨年度	38.0	37.0	37.0	37.0	35.5	35.5	35.5	36.0	34.0	35.5	33.5	34.5	35.8
新規利用者数	0	1	3	2	1	1	1	0	1	4	1	5	1.7
昨年度	5	2	3	4	3	2	1	3	1	0	3	3	2.5
終了者数	1	3	1	0	2	3	2	0	2	2	3	2	1.8
昨年度	5	2	3	6	4	2	0	4	4	1	1	3	2.9
入院者数	1	0	3	1	4	0	0	2	1	0	0	2	1.2
昨年度	1	1	2	0	1	3	4	2	3	4	5	3	2.4

## 2023 年度 事業所別加算状況

### 特別養護老人ホームとばた

ベースアップ等支援加算	有
安全対策体制加算	有
栄養マネジメント強化加算	有
科学的介護推進体制加算	加算 I
科学的介護推進体制加算	加算 II
外泊時費用	有
看護体制加算	加算 I 2
看護体制加算	加算 II 2
看取り介護加算	加算 I 1
看取り介護加算	加算 I 2
看取り介護加算	加算 I 3
看取り介護加算	加算 I 4
個別機能訓練加算	加算 I
個別機能訓練加算	加算 II
口腔衛生管理加算	加算 II
処遇改善加算	加算 I
初期加算	有
特定処遇改善加算	加算 I
日常生活継続支援加算	加算 II
認知症専門ケア加算	加算 I
排せつ支援加算	加算 I
夜勤職員配置加算	加算 II 2
療養食加算	有
褥瘡マネジメント加算	加算 I
褥瘡マネジメント加算	加算 II

## ショートステイとばた

### 短期入所生活介護

サービス提供体制強化加算	加算Ⅰ
ベースアップ等支援加算	有
看護体制加算	加算Ⅰ
看護体制加算	加算Ⅱ
機能訓練体制加算	有
処遇改善加算	加算Ⅰ
長期利用提供減算	有
特定処遇改善加算	加算Ⅰ
夜勤職員配置加算	加算Ⅱ
生活介護送迎加算	有

### 介護予防短期入所生活介護

サービス提供体制強化加算	加算Ⅰ
ベースアップ等支援加算	有
機能訓練体制加算	有
処遇改善加算	加算Ⅰ
特定処遇改善加算	加算Ⅰ
生活介護送迎加算	有

## ケアハウスとばた

### 特定施設入居者生活介護

サービス提供体制加算	加算Ⅱ
ベースアップ等支援加算	有
医療機関連携加算	有
科学的介護推進体制加算	有
個別機能訓練加算	加算Ⅰ
個別機能訓練加算	加算Ⅱ
口腔栄養スクリーニング加算	有
口腔衛生管理体制加算	有
処遇改善加算	加算Ⅰ
退院退所時連携加算	有
特定処遇改善加算	加算Ⅰ
夜間看護体制加算	有



介護予防特定施設入居者生活介護

サービス提供体制強化加算	加算Ⅱ
ベースアップ等支援加算	有
医療機関連携加算	有
科学的介護推進体制加算	有
個別機能訓練加算	加算Ⅰ
個別機能訓練加算	加算Ⅱ
口腔栄養スクリーニング加算	有
口腔衛生管理体制加算	有
処遇改善加算	加算Ⅰ
特定処遇改善加算	加算Ⅰ

グループホームとばた

サービス提供体制加算	加算Ⅰ
ベースアップ等支援加算	有
医療連携体制加算	加算Ⅰ
科学的介護推進体制加算	有
口腔衛生管理体制加算	有
処遇改善加算	加算Ⅰ
初期加算	有
特定処遇改善加算	加算Ⅰ
入院時費用	有
認知症専門ケア加算	加算Ⅰ

デイサービスセンターとばた

通所介護

ADL 維持等加算	加算Ⅰ
サービス提供体制加算	加算Ⅰ
ベースアップ等支援加算	有
科学的介護推進体制加算	有
個別機能訓練加算	加算Ⅰ 2
個別機能訓練加算	加算Ⅱ
処遇改善加算	加算Ⅰ
送迎減算	有
特定処遇改善加算	加算Ⅰ
入浴介助加算	有

北九州市予防給付型通所サービス

ベースアップ等支援加算	有
運動器機能向上加算	有
科学的介護推進体制加算	有
処遇改善加算	加算Ⅰ
提供体制加算	加算Ⅰ 1
提供体制加算	加算Ⅰ 2
特定処遇改善加算	加算Ⅰ

北九州市生活支援型通所サービス

送迎加算(1割)	有
送迎加算・日割(1割)	有
入浴加算(1割)	有
入浴加算・日割(1割)	有

ケアプランセンターとばた

初回加算	有
退院退所加算	加算Ⅰ
退院退所加算	加算Ⅱ
特定事業所加算	加算Ⅲ
入院時情報連携加算	加算Ⅰ
入院時情報連携加算	加算Ⅱ

ヘルパーステーションとばた

訪問介護

ベースアップ等支援加算	有
処遇改善加算	加算Ⅰ
初回加算	有
特定処遇改善加算	加算Ⅱ

北九州市予防給付型訪問サービス

ベースアップ等支援加算	有
処遇改善加算	加算Ⅰ
初回加算	有
特定処遇改善加算	加算Ⅱ

北九州市生活支援型訪問サービス

訪問型サービス(1割)	有
-------------	---

## 2023年度 社会福祉法人福音会 評議員会開催記録

第1回 定時評議員会 (2023年6月17日)

議題

第1号議案 2022年度決算書類等について (承認)

第2号議案 新役員案について (承認)

## 2023年度 社会福祉法人福音会 理事会開催記録

第1回 通常理事会 (2023年6月1日)

議題

第1号議案 2022年度決算書類等について (承認)

第2号議案 新役員案について (承認)

第3号議案 定時評議員会の開催等について (承認)

第4号議案 評議員選任・解任委員会委員の選出について (承認)

第1回 臨時理事会 (2023年6月17日)

議題

第1号議案 理事長の選定について (承認)

第2号議案 業務執行理事の選定について (承認)

第2回 通常理事会 (2024年3月22日)

議題

第1号議案 2023年度補正予算について (承認)

第2号議案 2024年度事業計画について (承認)

第3号議案 2024年度予算について (承認)

第4号議案 就業規則の一部改定について (承認)

第5号議案 給与規程の一部改定について (承認)

**評議員（任期 2021 年 5 月 19 日～2025 年 6 月開催の定時評議員会終結の時）**

区 分	人 数	氏 名	備 考
評議員	定員 7 名以上 8 名以内  現員 8 名	植 田 浩 司 緒 方 有為子 久 能 俊 昭 <sup>※1</sup> 廣 瀬 一 郎 <sup>※2</sup> 江 田 久美子 五郎丸 日出雄 元 重 義 則 村 山 浩一郎 山 根 正 夫	※福音会定款第 5 条 (評議員の定数) による。

※1 2023 年 3 月 31 日まで

※2 2023 年 4 月 1 日から

**役員（任期 2023 年 6 月 17 日～2025 年 6 月開催の定時評議員会終結の時）**

区 分	人 数	氏 名	備 考
理 事	定員 6 名以上 7 名以内  現員 7 名	浅 野 嘉 延 木 村 美穂子 大 野 剛 白 川 恵 子 中 村 貴 志 山 田 裕 司	※福音会定款第 15 条 (役員)の定数) による。
監 事	定員 2 名  現員 2 名	伊 東 幸 雄 江 口 敏 一	

## 事業報告の附属明細書

2023年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人 福音会